

集団が苦手な子どもたちへの対応

～ 思春期診療から見た適応障害～

講師 弘前大学医学部附属病院精神科病院棟医長

斉藤 まなぶ 先生



【不登校の現状（文科省統計）】

平成 22 年度の「不登校児童生徒数の推移」によると、平成 13 年頃をピークに徐々に減少の傾向にある。しかし、件数は減っているが、その登校の内容（とりえず来ている）は不明である。「学年別不登校児童生徒数」によると、小学校、中学校とも学年が上がるに連れて、増加している。とくに中学校に進学するとぐんと増加している。こういった点でも小中連携の必要性を感じる。

青森県における不登校児童生徒は、児童 1000 人に対して小学校 2.7 人（全国 3.3 人）、生徒 1000 人に対して中学校 28.7 人（全国 27.4 人）、高等学校 9.4 人（全国 16.6 人）、中退者数は 1.5 %（全国 1.7 %）である。病院を受診しているのは、そのうちの 2 割程度ではないかと推測される。

不登校の原因は小・中学校では不安など情緒的混乱 23.7 %、無気力 21.7 %、いじめを除く友人関係をめぐる問題 15.2 % など。高等学校では無気力 24.1 %、不安など情緒的混乱 16.3 %、あそび・非行 11.0 % などとなっている。相談率は小・中学校が学校外 30.4 %、学校内 52.3 %、高等学校は学校外 16.6 %、学校内 34.9 % となっている。

【大学病院における不登校調査】

大学で不登校の調査をしたいという学生がおり、「不登校になってから受診するまでが、早ければ早いほど、回復が早いのではないか」という仮説をもって臨んだが、さほど違いはなかった。

【精神障害を持つ不登校児への対応】

（１）発達障害児への対応

不登校児は発達障害を抱えているケースも多い。そこでその障害特性や程度を知る必要がある。それによって、環境調整や学習の工夫をしていくことで、改善される可能性もある。この場合、発達障害に気がつかないでいると、二次障害による精神障害を合併することもある。

（２）身体化障害や不安障害の児への対応

ストレスの原因がなんであるか知ることは重要である。知的水準が低いほど、身体化（頭が痛い、お腹が痛い）する傾向にある。不安障害では、不安の内容がコロコロ変わるのが特徴であり、ストレス耐性の強化が必要である。

(3) うつ病児への対応

うつ病児への対応は、身体症状はもとより、睡眠や摂食状況の悪化に注目しなくてはならない。また、自傷や自殺企図の可能性にも注意が必要である。自傷は習慣化する傾向にあり、自殺企図は低年齢化している。

子どものうつの特長としては、朝起きれないことがあげられる。就寝が遅いために、朝起きられないと思われがちだが、朝起きた時刻で就寝時刻が決まるのである。疫学的に見て、6ヶ月有病率は、学童期 0.5 ~ 2.5 % (男:女 = 1 : 1)、青年期 2.0 ~ 8.0 % (男:女 = 1 : 2) である。また、小・中学生の抑うつ群は全体の 13.0 %、そのうち小学生は 7.8 %、中学生は 22.8 % である。

うつ病の診断は、A 抑うつ気分 興味・喜びの喪失 B 食欲不振、体重減少(ときに過食) 不眠(ときに過眠) 精神運動性の焦燥、または制止 易疲労性、または気力減退 無価値観、過剰な罪責感 思考力、集中力減退、決断困難 自殺念慮、自殺企図、これらの症状のうち5つが同じ2週間以上持続、少なくとも1つはA症状であることで診断される。

定型うつ病は、中年男性に多く、非定型うつ病は、うつと診断される人の3~4割を占め、若年女性に多い。子どものうつ病の臨床的特徴的は、児童期は感情表出・言語表現が未熟なことと、思春期は苛立ちや攻撃性が前面に出ることがあることである。わがままと片づけられ、うつ病と診断されないこともよくある。

若年層に多いうつ病として新型うつ病(ディスミア型うつ病)があり、医学的には気分変調に該当する。病気になりたいという願望があり、薬も効かない。長期間仕事に就けないなど社会で生きるのは大変である。診断書の書き方として「休みたくない」という人には「休ませる」、「休みたい」という人には「休ませない」ようにしている。

(4) 統合失調症や双極性障害児への対応

寛解と悪化を繰り返しやすいので、病状悪化時は治療を優先させる。慢性的な意識低下があり集中困難をきたすこともある。服薬により症状は治まるが、周囲の刺激で容易に再燃する必要がある。「頑張り」という励ましも時には逆効果になる。

(5) 大切なこと

いずれにせよ、大切なことは、子どもの話をよく聞く事、その子の考えや感情に納得してあげること、行動の善し悪しと人格の問題は別に扱うこと、子どもが努力できる事をできるだけ子どもに決めさせることである。

〔質問〕

Q.学校と病院がどのように連携したらよいか?

A.守秘義務があるため、病院では学校側からの直接の問い合わせには応えることができない。しかし、学校側で保護者の了解を得ることができた場合は、問い合わせに応じたケースもある。